

令和5年度 第2学期終業式 式辞(R5.12.22)

校長 杉本 和博

平野部にも本格的な雪が降り、しっかりと冬らしい寒さになってきました。学校では、インフルエンザの流行も何とか峠を越したようで、こうして3学年が揃って終業式を迎えられました。本当にありがたいことだと思います。

8月28日にスタートしたこの2学期は、授業日数が81日間でした。振り返ってみると、猛暑の中、熱中症を気にしながら練習した体育大会に始まり、新川地区新人大会、県中学駅伝、14歳の挑戦、県中文祭、中間考査、合唱コンクール、中教研学力調査、期末考査と、1つ1つの行事やテストに集中して取り組んでいるうちに、「あっ」という間に季節はすっかり冬になっていました。時が経つのは本当に早いと感じます。この2学期を振り返って、皆さんはどう感じているでしょうか。

ところで、ほとんどの人はもうすっかり忘れているでしょうが、2学期の始業式に私から皆さんへ「頑張してほしいこと」を伝えました。1年生へは、真のリーダーに成長してほしい。2年生へは、今の2年生でしか創れない雄山中の1年間を見せてほしい。3年生へは、全力で進路選択に臨んでほしい。そして全校生徒に対しては、クラスで取り組む合唱コンクールを通し、自分を成長させてほしいと伝えました。私が見ている限りでは、進路に向かう3年生の姿勢や合唱コンクールでの成長は「頑張っているな」と感じましたが、1年生や2年生については「まだまだやれる力はあるはず」と思っています。君達ならもっともっとできる、期待していますよ。

さてこの後、担任の先生から通知表を受け取ると、いよいよ午後からは冬休みに入ります。クリスマスに大晦日・元日と嬉しいことが目白押しですが、新しい年を迎えるにあたって、こんな言葉は知っているでしょうね。「一年の計は元旦にあり」、これは1年の計画は元旦（つまり1月1日の朝）に立てるのが良いという意味で、転じて「物事は最初が肝心である」という例えにもなっています。しかし、実のところ私はこの言葉を実践してないし、むしろ「私の性格には合わない」とさえ思っています。皆さんはどうですか。私は、1月1日という切りの良い日に何かをスタートさせたいので、元旦に計画を立てては遅いんです。計画は大晦日までにしっかりと終え、1月1日から即実行したい

のです。大きな節目に合わせて始めたことは、そうでない場合より長続きする気がします。もしかして昔の人は、1月1日の活動は控え、翌日から動き出すという風習だったのかもしれませんが、1月2日が1日目というズレが私のセンスには合わないのだと思います。皆さんはどう感じていますか。

こんな私の「小さなこだわり」はさておき、大きな節目を利用して何かをスタートさせるのはとても良いことです。皆さんも新年から何かを始めてはいかがでしょうか。そしてその時に大切なのは、立派なこと・大きなことを始めようとせず、小さなことでも長く続けられる内容を選ぶことです。人生は長丁場、短距離走ではありません。「千里の道も一歩から」ということわざがありますが、どんなに大きな目標でも、まずは身近なところから着実に努力を重ねていくことが肝心で、結局はそれが自分を大きく成長させる近道なのです。それに誰かと一緒に始めると、これも長続きしますよ。

令和5年もあと9日間。残された時間を使って考え、新年の大きな節目に何かを始めてみてはどうでしょうか。